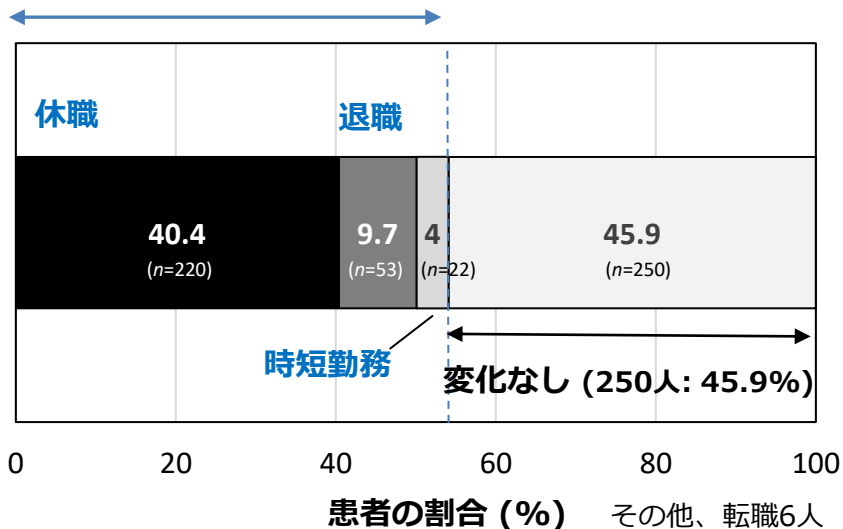


新型コロナウイルス罹患後症状患者における就労への影響

【対象・方法】 当院コロナ・アフターケア外来を受診した**新型コロナウイルス罹患後症状患者846人**（2021年2月15日～2023年12月31日）のうち、**就労に関連する年齢層（18歳以上65歳未満）の692人**を対象に、非雇用者などを除外したのち、**545人の雇用されている後遺症患者の労働状況の変化**を調査しました。

雇用されている後遺症患者の労働状況の変化

雇用変化あり (295人: 54.1%)



主な結果：

- ① 雇用されているコロナ後遺症患者のうち過半数の54%において雇用状況に変化があり、その内訳は**休職 > 退職 > 時短勤務**でした。
- ② 就労への影響は女性で多く、若年者・高齢者では退職率が高い傾向を認めました。
- ③ 雇用状況の変化は、デルタ株期に感染した後遺症と比べ、**オミクロン株期**の感染による後遺症で58%と増加し、雇用に影響した患者の**64%で収入が減少**していました。
- ④ 雇用状況に影響のあった後遺症患者では、**倦怠感・頭痛・不眠・呼吸困難感**の症状が有意に多く、生活の質の悪化、うつ状態の悪化に関与していました。

Yui Matsuda, Yasue Sakurada, Yuki Otsuka, Kazuki Tokumasu, Yasuhiro Nakano, Naruhiko Sunada, Hiroyuki Honda, Toru Hasegawa, Ryosuke Takase, Daisuke Omura, Keigo Ueda, and Fumio Otsuka:

Changes in working situations of employed long COVID patients: a retrospective study in a Japanese outpatient clinic.

J Clin Med. 2024;13(13):3809.

